

1 「微差」を重ねて、夢を実現

7月1日、3年生にとって就職のための「求人票」受付が開始される日を迎えました。なかなか先の見通せないコロナ禍が続いており、企業の採用活動に関しても様々な影響が生じています。求められる人材となるためには、日頃どれだけ自分を高めてきたかが肝心です。2年生は1年後に、1年生も2年後には同じ時を迎えます。納得のいく就職がかなえられるよう、また、進学希望者も自分の夢の実現に向けて、地道にコツコツと「微差」を積み重ね、「大差」をつけていきましょう。



2 「なぜ勉強が必要なのか」

最近読んだ本から、「なぜ勉強が必要なのか」という内容の文を紹介したいと思います。

作家太宰治は、「なぜ勉強が必要なのか」をこう説いています。勉強というものは、川で砂金を取ることと似ている、と。川に皿を入れたら、そこに入るのはほとんどが水や土や石ですが、それを何度もやっていたら、少しだけ砂金が入ります。そして当然のことですが、その作業をしなければ砂金は決して手に入りません。川にお皿を入れたら、お皿いっぱい砂金が取れるなんてことはまずないでしょうから。

「勉強というものは、いいものだ。代数や幾何の勉強が学校を卒業してしまえば、もう何の役にも立たないものだと思っている人もあるようだが、大間違いだ。植物でも、動物でも、物理でも化学でも、時間の許す限り勉強しておかなければならぬ。日常の生活に直接役に立たないような勉強こそ、将来、君たちの人格を完成させるのだ。何も自分の知識を誇る必要はない。勉強して、それから、けろりと忘れてもいいんだ。覚えるということが大事なのではなくて、大事なのは、カルチベートされるということなんだ。カルチュアというのは、公式や単語をたくさん暗記していることではなくて、心を広く持つということなんだ。つまり、愛するということを知ることだ。学生時代に不勉強だった人は、社会に出てからも、かならずむごいエゴイストだ。学問なんて、覚えると同時に忘れてしまってもいいものなんだ。けれども、全部忘れてしまっても、その勉強の訓練の底にひとつかみの砂金が残っているものだ。これだ。これが貴いのだ。勉強しなければいかん。そうして、その学問を、生活に無理に直接に役立てようとあせってはいかん。ゆったりと、真にカルチベートされた人間になれ！」 (太宰治著「正義と微笑」)

(坪田信貴著『やりたいことが見つからない君へ』)

3 科学技術高校に寄せられる期待

6月2日(木)、「令和4年度体育祭」を実施しました。晴天に恵まれ、全校生徒一人ひとりが、全力で出場する競技を頑張る姿が見られました。そして、その仲間たちを心から応援する姿に感動しました。コロナ感染症対策のため、保護者の皆様には芝生席からの観戦をお願いさせていただきましたが、受付を通ってくださった方だけで685名の方々が、平日の日中にもかかわらず草薙総合運動場まで駆けつけてくださいました。現在、8月3日と4日に開催する「中学生一日体験入学」の参加申し込みを受け付けています。中学生が「入りたい」、保護者が「入りたい」、そして「科学技術高校を選んで本当に良かった」と思っただけのよう、『チーム科学技術高校』一丸となって、理想の学校を目指してまいります。